

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2020～2021年度 国際ロータリー ホルガー・クナーク 会長テーマ

Rotary Opens Opportunities ロータリーは機会の扉を開く

創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL <0566>22-2111
FAX <0566>25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 神野 公秀
幹事 鬼頭 一浩
会報委員長 池田 直樹

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第3121回例会プログラム

[当年度=38回目；当月=5週目]

2021年（令和3年）5月31日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

12:28 1. チャイム

12:30 2. 点鐘……………〈会長〉

3. 開会宣言

4. ロータリーソング斉唱……………四つのテスト

5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介

6. 会長挨拶並びに会長報告

7. 職業表彰（職業奉仕委員会）

……………一里山・今井病院

院長 今井 文博 様

8. 退会会員挨拶……………堀田 昌義 会員

林 正敏 会員

9. 幹事報告

10. 副幹事報告

11. 出席報告

12. 委員会報告

13. ニコニコボックス報告

14. 次週並びに次々週のプログラムの予告

(6/7) ……取消(定款第7条第1節(d)-3)

(6/14) ……休会(定款第7条第1節(d))

15. 点鐘……………〈会長〉

16. 閉会宣言

13:00 17. 散会

ゲ ス ト

一里山・今井病院 院長 今井 文博 様

出 席

会員総数 98名 出席免除 26名

出席義務者+免除者の内例会出席者 86名

欠席 6名 出席率 93.02%

前々回(4/17)の修正出席率 100%

会 長 報 告

1) 西尾 KIRARA ロータリークラブより、30周年記念式典お礼状が届きました。

幹 事 報 告

1) 国際ロータリー第2760地区より、新型コロナウイルスに苦しむインドへの支援協力のお願いがありました。本日募金箱をお返ししておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。

2) 緊急事態宣言が来月20日まで延長となりましたので、次週7日の例会は取り消しと致します。次々週14日は定款により休会となっております。尚、7日に予定しておりました、クラブ協議会と当年度・次年度合同理事役員委員長会議は21日に変更と致しますので、よろしくお願い致します。

副 幹 事 報 告

1) 2021年から2022年の会員名簿作成につきまして、例年は名簿の回覧をさせて頂いておりましたが今年はコロナ感染症対策のため回覧は致しません。変更のある方は私もしくは、事務局の倉内さんまで6月

10日頃までにご連絡下さい。会員の皆様にはお手数をお掛け致しますがよろしくお願い致します。

委員会報告

●親睦活動委員会

- 1) 6月17日に予定していましたゴルフ同好会の納会は中止となりました。年間成績発表は後日行わせて頂きます。

会長あいさつ

神野 公秀



明日から、6月「水無月」です。6月は梅雨時に関わらず、水のない月と呼ばれるのは、旧暦の6月は新暦では7月ごろになり、暑さの中で水が涸れることから、この呼び名が生まれたそうです。また、田植え仕事が終わった「皆仕尽」、田に水を張る「水張月」が転じたという説もあります。

四季があり、季節によって天気や気温が変化する日本では、季節ごとに衣類や持ち物を替える、「衣替え」の習慣があります。多くの地域では、6月1日と10月1日に一斉に衣替えが行われて来ましたが、気候の変化に伴い、最近は2週間から1か月間の移行期間を設けられているところが多いようです。比較的寒冷な北海道では、半月ずつずれた、6月15日と9月15日に衣替えをすることが多く、出雲地方では、6月初旬の出雲大社「涼殿祭」をもって衣替えとする伝統が残っているそうです。また、温暖な気候の南西諸島では、衣替えは5月1日と11月1日に行われており、夏服・合服を着用する期間がこの地域より2か月ほど長くなります。

衣替えは、中国から平安時代に伝わった宮中行事「更衣」を起源としています。天皇の衣替えの役目を持つ女官の職名も更衣と言い、後に天皇の寝所に奉仕する女官で女御に次ぐ者を指すようになったので、更衣とは言わず衣替えと言うようになりましたが、「衣更え」とも表記するのは、その名残りです。平安時代の宮中では、旧暦4月1日と10月1日の年二回、夏装束と冬装束を切り替えていました。日々の生活で積もった罪穢れを祓う意味合いもあったため、調度品も季節に応じたしつらえに替えていたそうです。また、貴婦人が手に持つ扇も冬は檜扇（ひおうぎ=ヒノキ製）、夏は蝙蝠（かわほり=紙と竹製）と決められていました。

江戸時代になると、幕府は四季に応じて年四回の衣替

えを定めます。武士は春と秋に裏地のついた着物である「袷」、夏に裏地のない「帷子」、冬に表布と裏布との間に綿を入れた「綿入れ」を着用し、それぞれの着物に切り替わる初日に衣替えを行いました。このしきたりが庶民にも広がり、日本の年中行事として定着しました。年に二回となったのは明治時代で、官公庁の制服が採用されたのを機に、1873年（明治6年）1月1日より採用された新暦の6月1日と10月1日が衣替えの日となりました。

和服では、この衣替えのしきたりが今も重要視されています。着物には袷、単衣、薄物などがありますが、これらは着る時期が決められています。一番長く着られるのは袷で、10月から冬を過ぎて5月末までです。6月は単衣、7月8月の暑い時期には薄物、9月には単衣に戻り、10月からはまた袷の季節になります。また、着物の場合、仕立てばかりでなく、四季折々にふさわしい柄があります。冬には雪輪や枯山水、そして椿や南天、梅で春を待ち、春には芽吹きや蝶、桜など。夏には藤やあやめ、魚や流水模様、秋になれば菊や萩、もみじ、月など、その季節ならではの柄でおしゃれを楽しみます。しかし、皆様もご承知のとおり、実際の季節より一足早く身に着けるのが粋で、桜が咲き誇る頃に桜を着るのは野暮だといわれています。

現在、一般家庭における衣替えは、その家、その家のタイミングで行うようになってきました。今年は早々と梅雨入りをしてしまい、鬱陶しい日が多くなっています。涼しげな夏服にあやかって、清々しい月のはじまりとしたいものです。

本日まで愛知県に出されていた、緊急事態宣言も6月20日まで延長されました。会員の皆様にご無理をお願いして、変則的な形の例会を開催させて頂いたおかげで、本日の職業表彰まで行くことが出来ました。次週より緊急事態宣言が解除されるまで、例会を休会とさせて頂きます。6月21日には例会が開催でき、元気な顔の皆様にお会い出来たらと思います。そして、6月25日（金）には本年度の最終例会が、予定通りクラウンパレス知立にて開催出来ることを願っています。



職 業 表 彰



今井 文博 様

退会会員あいさつ



堀田 昌義 会員



林 正敏 会員